

おのずから見えてくる悪党の筋書

平和統一 NEWS No.71 (2014/ 8 月号)

渡辺 久義

いま世界で次々に起こっている、残忍で不可解な、市民（特に子供！）の殺戮、旅客機の墜落、それに気象破壊など、そしてこれに対する世界の主流メディアの、とぼけた反応（あるいは無反応）——これを説明するのは格別難しいことではない。ここ 2 年ほど前から、私が「創造デザイン学会」サイトに載せている、主として翻訳の記事をいくつか読んでいただくと、ただ、「ああそういうことか」とわかるはずである。今から引用するいくつかの抜書きから、読者は自分で筋道をつけていただきたい。特に説明はいらないであろう。

「イルミナティと 300 人委員会の 21 項目の目標」 from *Conspirators' Hierarchy: The Story of the Committee of 300* (2012/6/16 掲載) より——

「7. ポル・ポト体制がカンボディアで実行したようなトライアル・ランに倣って、大都市の人口削減をもたらすこと。ポル・ポトのジェノサイド計画がアメリカでも、ローマクラブの研究財団の一つによって起草され、国防省の高官 Thomas Enders がこれを黙認しているのは、注目すべき興味あることだ。」

「9. 先進国では限定戦争によって、第三世界諸国では飢饉と病気によって、2050 年までに 30 億人のいわゆる“徒食者”が死ぬようにすること。」

「11. このような危機を次から次へと作り出すことによって、あらゆる場所の住人が、自ら身を処しこれらの危機に“対処”しきれなくすること。これによって人々は混乱し消沈し、…大きな規模での麻痺が生ずるだろう。アメリカの場合は、すでに危機管理局 (FEMA) が設けられている。」

（これとよく似た、過去形の不思議な文章が、2010 年ロックフェラー財団による“Scenarios for the Future…” という文書に出ている——「大規模な破局的な出来事が、これほど息つく暇もなく起こる世界に対して、誰も心の準備をしていなかった」）

この他に、デイヴィッド・ロックフェラーの言葉として、「我々は地球的な大変革の変わり目にいる。我々が必要とするのは正しい種類の危機だけである。それがあれば諸国家は NWO（新世界秩序）を受け入れるであろう。」

「20. 世界中にテロリスト機関を設置し、テロ活動が起こるたびにテロリストたちと交渉すること。」

「なぜ MH17 機は、10 機もの航空機が撃墜された戦闘地帯を飛んでいたのか？」(2014/7/23 掲載) より——

「もしあなたが誰かに核戦争を戦わせ、大量虐殺をやらせ、飛行機を撃ち落とさせたいければ、きょう日、あなたは自由市場で、そうした仕事をしてくれる者たちを買うことができる。9・11 以来、私的な軍事会社の蔓延によって、軍産複合体にとってはとても便利な世の中になった——ありがたいことに！ しかしどのようにしてこの世界が、このような会社が国家の保護と仕事をもらえるまでになったのかは、全く想像もできない。」

「ヨーロッパと北アメリカ諸国が、気づいたときすでに遅かったことは、厳密な交換統制を守ることによってのみ、自分たちが主権国家でいられることだった。それを守らないと、国際金融資本は、無際限の力をもって、彼らの邪魔をする——メディアから国会に至る——すべてのものを破壊するために割って入るだろう。それに抵抗できるものは何もない。」(「メディアから国会に至る」とあるが、彼らはそれらを通じて、学問、教育、宗教などまでコントロールしていることが、やがて判明するだろう。)

「市民の無差別殺戮や拷問をはじめとする繰り返される人権の蹂躪が、**傭兵たち**によって行われている。責任も取らず規制もされないで、これらの会社は世界中で人権蹂躪の共犯者となっており、人命より利益を優先させ、戦争の炎を煽っている。」

「マレーシア MH17 墜落事件：ロシアがウクライナに回答を求める 10 の質問」(2014/7/18 掲載) より——

「ロシア国防副長官アナトーリ・アントノフは、西側諸国がまだ証拠もないうちに、“墜落からほんの 24 時間後に” 結論に飛びつこうとしたことを非難した。“彼らは全世界に向かって、墜落は我々ロシアの仕業だと言おうとしています。何の証拠もないのに西側のメディアが、この墜落の責任者を決めたがっているのは、実に不可解なことです。” この事件を、一方の仕業として誹謗する口実に使うのではなく、このウクライナ上空の惨劇は、**未来においてこのような悲劇を防止するための、相互協力を再開させる機会として用いるべきだ。**」

(この意味は、下手人も被害者もメディアも国家も、背後にいる者に利用されているのだから、それを究明せよということ。また 9・11 のときにも、事件直後に「あれはアルカイダがやったことですよ」と説明して回る要員がいたことに注意。)

「米情報局：“ロシアがやったのではない”」（2014/7/30 掲載）より——

「マレーシア旅客機を撃ち落としたのはロシアだと、敵意ある非難を何日も繰り返したあと、ホワイトハウスは情報局に対し、ロシア政府が関わった証拠はないことを、記者団に発表してもよいという許可を出した。明らかにアメリカの衛星写真は、オバマ政府のウソを支持するものではない。もしホワイトハウスが、ロシアを共犯とする証拠を少しでも持っていたら、何日も前から大宣伝をしていたであろう。」

「同じ日、先立って、国務省スポークス・ウーマン **Marie Harf**——オバマ政府の脳なし戦争屋的女性の一人——は、ロシア政府の公的な責任否定について質問した記者団に対して怒った。あなた方はわからないのですか、アメリカ政府の言うことは信用でき、ロシア政府の言うことは信用できないということが！」